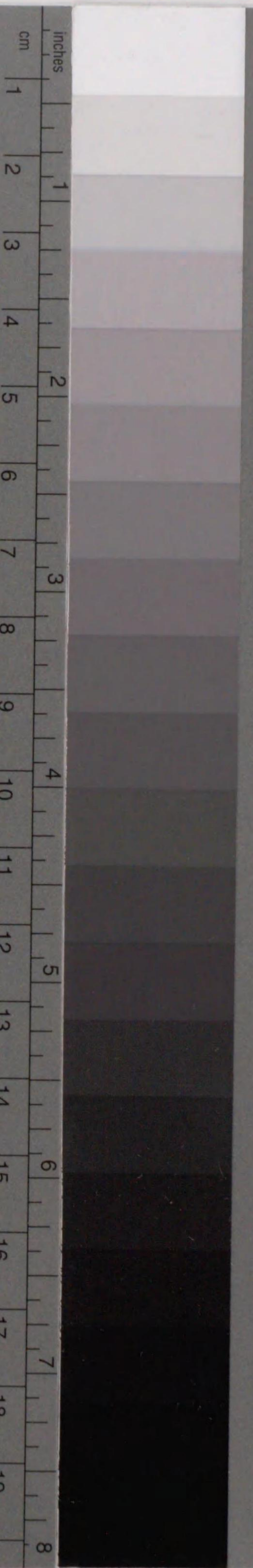


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

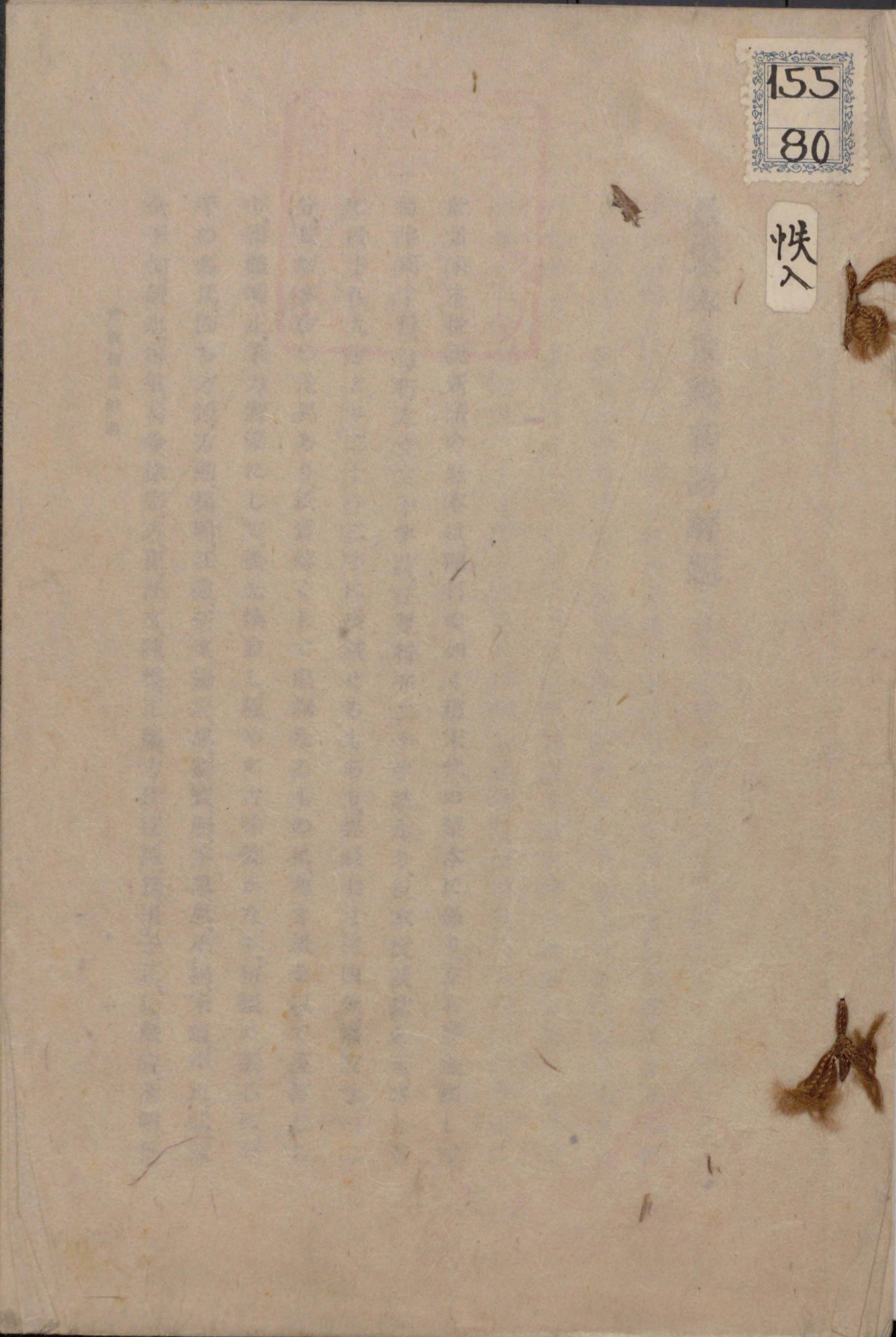
Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



155
80

快入



景宋本世說新語解題

此景宋本世說新語の底本は、題目の如く、趙宋代の槧本に係り、左右雙邊にして、

每半葉十行、每行本文二十字、詰、注雙行亦二十字、詰なり、但本文及注とも、時とし

ては十八九字より二十一二字に増減せるもあり、界長七寸三四分、幅五寸一二

分、長短多少の差異あり、紙質薄くして堅韌なるものに、薄き紙を以て裏打しあ

り、書體端正、筆力遒勁にして、墨光煥發し、極めて古味饒かなり、每張の板心に、刻

手の名氏、即ち方達、方通、楊明、江泉、何又、楊思、思、劉寶、明、羊思、思、小楊、宋道、李正、江、戴

全、李佺、嚴忠、鄭敏、葛珍、徐宗、方正、汪文、陳榮、王榮、方迂、迂、陳、盛、王子正、楊、嚴定、葉明、鄧



英、葉己等の文字を刻せり、又處々に、本邦昔人の朱を以て、博士家古點、即ち世俗に云はゆる乎古止點を施けるあり、此景本にて、墨色稍淡白に見ゆる點は、即ち乎古止點なり、

此本一部を析ちて、上中下の三卷三十六門及叙録上下の二卷、通じて五卷と爲し、之を裝釘して、世説新語三冊、叙録二冊、通じて五冊と爲したり、新語は、每冊の首行に、世説新語上若しくは中、又は下と題し、次行に、宋臨川王義慶撰と署し、第三行に、梁劉孝標注と署せり、而して第四行に至り、頭四字を低くして、門目を記せり、上卷は、德行門より起りて、文學門に至り、中卷は、方正門より起りて、豪爽門に至り、下卷は、容止門より起りて、仇隙門に訖る、趙宋代の槧本に係るを以て、宋帝の諱字及嫌名、徵敬恒殷貞構匡胤竟勗慎等の文字を避けて、皆末筆を闕けり、慎の字は、孝宗の嫌名に係るを以て、蓋し孝宗以後に、刻する所ならん、又每冊の尾に、世説新語上若しくは中、又は下と題せり、叙録の二冊は、宋の汪藻の撰に

係るを以て、その第一冊の首行に、世説叙録と題し、下に汪藻と署し、而して第一冊に、云はゆる叙録と考異と人物譜とあり、其中人物譜は、琅琊臨沂王氏譜に始まり、潁川潁陰荀氏譜に畢り、第二冊は、通篇人物譜のみにして、首行に、陳郡陽夏袁氏譜と署せり、即ち袁氏譜より始り、而して無譜者二十六族に畢る、無譜者の末、用紙若干張缺佚せり、今爰に叙録上下二卷と記せしは、板心に、叙録上、叙録下と記しあるに據りしのみにて、冊の首尾にては、上下二卷たることは不明なり、但し宋史の藝文志には、汪藻世説叙録三卷と記せり、然れども宋の陳振孫の直齋書錄解題には、下に記するが如く、尙二卷に作れり、藝文志偶々或は誤れる歟、又世説三卷とも、竝に首尾に、方一寸四分許の篆文睢陽王氏とある朱印、及金澤文庫の墨印あり、朱印は、肉色鮮好にして、頗る古色あり、文字の篆體も、亦頗る高尚にして典雅なり、蓋し宋元間のものならんと思ふ、又金澤文庫は、北條越後守實時の創立せし所にして、此墨印は、文庫存在の當時、鈐せしものに係るは、學

人の普く知る所、今爰に縷述するを待たざるなり、叙録は、第一卷の首尾に、睢陽王氏の朱印あり、尾に更に金澤文庫の墨印あり、その第二卷には、首に睢陽王氏の朱印あるのみにして、其尾紙缺佚するを以て、印記なし、毎冊に、淡青色の厚くして強韌なる襍紙を付し、その第一冊に、世説新語上、第二冊に世説新語中、第三冊に世説新語下、第四冊に世説叙録、第五冊に世説人名譜と標題を付せり、今其結體用筆よりして、その書を審定するに、其れ或は大學頭林憲の筆迹ならんかと思ふ、

世説新語内容の何如なるものなるかは、解題の書籍、古來より鮮なからずと雖ども、就中元の馬端臨の文獻通考の經籍考に、宋の高似孫著の緯畧を引く處、簡にして要を得たれば、爰に抄録す、其書に云く、高氏緯畧曰、義慶采漢晉以來佳事佳話、爲世説新語、極爲精絕、而猶未爲奇也、梁劉孝標注此書、引據詳確、有不言之妙、如引漢魏吳諸史、乃史傳地理之書、皆不必言、只如晉氏一朝史及晉諸公別傳譜

錄文章、凡一百六十六家、皆出於正史之外、紀載特詳、聞見未接、寔爲注書之法、と、要言煩ならずと謂ふべきなり、

二

今八史經籍志等に據りて、此書傳世の沿革、及卷數等を檢し、其概畧を記すこと左の如し、

隋書の經籍志には、世説八卷、宋臨川王劉義慶撰、世説十卷、劉孝標注とあり、義慶の劉宋の人たり、孝標の蕭梁の人たるは、言を待たず、孝標名は峻、字を以て行はれ、二人の事蹟は、宋書及梁書に具備せり、舊唐書の經籍志に、世説八卷、劉義慶撰、續世説十卷、劉孝標撰とあり、新唐書の藝文志に、劉義慶世説八卷、又小説十卷、劉孝標續世説十卷とあり、宋史の藝文志に、劉義慶世説新語三卷とあり、又宋の晁公武の郡齋讀書志には、世説新語十卷を載せて、その解題に、右宋劉義慶撰、劉

孝標注、紀東漢以後事、分三十八門、唐藝文志云、劉義慶世說八卷、劉孝標續十卷、而崇文書目、止載十卷、當時孝標續義慶元本、通成十卷耳云々と云へり、又陳振孫の直齋書錄解題には、世說新語三卷、叙錄二卷を載せて、其解題に、宋臨川王劉義慶撰、梁劉峻孝標注、叙錄者、近世學士新安汪藻彥章所爲也、首爲考異、繼列人物世譜、姓氏異同、末記所引書目、按唐志、作八卷、劉孝標續十卷、自餘諸家、所藏卷第、多不同、叙錄詳之、此本董令升刻之嚴州、以爲晏元獻公手自校定、刪去重複者、と云へり、又宋の鄭樵著す所の通志の藝文畧小説の部に、世說八卷、宋臨川王劉義慶撰、續世說十卷、劉孝標撰と記し、元の馬端臨の文獻通考の經籍考の子部に、世說新語十卷、重編世說十卷を載せたり、

又我國にありては、藤原佐世の現在書目には、世說十、宋臨川王劉義慶撰、劉孝標注とあり、今現在書目の外に、藤原通憲の信西藏書目錄等、我邦和漢書目の古代のもの數種を検索したれども、未だ世說新語を載せしものを見ざりき、因に

云ふ、現在書目に世說十と記載せし下に、更に世說問答二、世說問錄十と記載せり、此二書は、如何なるものなるか、固より佚して傳はらざるものなるべし、但し隋書及舊唐書の經籍志、新唐書及宋史の藝文志、鄭樵の通志、馬端臨の文獻通考、郡齋讀書志、直齋書錄解題等の古昔の書籍目錄、並に二書を載せざるが如し、今朱明以下の書目を省略し、以上列舉せし所の宋元以前の經籍志、藝文志、及晁陳二家の書目、通志、文獻通考と、我國の現在書目とを以て統觀すれば、隋書經籍志の世說八卷、宋臨川王劉義慶撰とあるは、即ち義慶の原本にして、其世說十卷、劉孝標注とあるは、蓋し義慶の原本に、孝標が注釋して、更に析ちて、十卷と爲し、ものならん歟、舊唐書の經籍志、新唐書の藝文志、並に劉義慶の世說八卷を載すること、隋書と同じ、但し二書別に、劉孝標撰の續世說十卷を載せたり、續世說なるものは、何如なる書なるか、不明なれども、郡齋讀書志の説の如く、劉孝標が劉義慶の元本に續ぎて、通じて十卷と爲し、ものにして、即ち隋書の經籍志

に世説十卷、劉孝標注と記載せしものと、同一の書に係り、前に義慶の原本に、孝標が注釋して、更に析ちて十卷と爲し、歟と稱せしもの歟、或は別にその書ありしか、今日にありては、之を知るに由なし、但し直齋書錄解題には、孔平仲毅父撰とある續世説三卷を載せたり、然れどもこれは異書にして、固より新舊二唐書に載せし所のものにあらざるなり、宋史の藝文志に至り、始めて標題を世説新語とし、全部を析ちて、三卷と爲し、なり、乃ち宋史の記する所の書の卷數、正に此宋本に符合せり、但し郡齋讀書志には、仍ほ卷數を、十卷と記せり、此時十卷本、尙世に存せしもの、如し、但し其書は、隋書の經籍志に、世説十卷、劉孝標注と載せしものと、果して同一のものなりや否やは、今日にありては知る能はざるなり、書錄解題に載する所に至りては、卷數宋史の藝文志に同じく、正に此宋本と符合せり、但し書錄解題には、董令升刻之嚴州云々とあれども、此本序跋なく、又末冊人物譜の末、用紙若干葉缺佚するを以て、云はゆる董令升の刻本なりや

否やは、知ること能はざるなり、通志に記する所は、舊唐書、新唐書の藝文志に據りしが如く、文獻通考に載せし所の、世説新語十卷とあるは、劉孝標の注本なるが如くなれども、其重編世説十卷とあるは、何如なるものなるか、此れ亦知ること能はざるなり、
我邦現在書目に載する所のものは、前にも記せしが如く、世説十、劉義慶撰、劉孝標注とあれば、卷數及注者、正に隋書の經籍志の劉孝標の注本に符合せり、現在書目の成りしは、唐初に隋書を修せし時を距ること、猶未だ遠からざれば、其經籍志に載せしものと、正に同一の孝標の注本なるべし、而して據りて以て一千有餘年前に、其書の既に我國に渡來せしを知るべし、

猶此書の世説と稱し、或は劉義慶世説と稱し、或は世説新書と稱し、或は世説新語と稱し、その書名の一定せざりしこと、卷數も、兩卷三卷八卷十卷十一卷と、頗る異同ありしこと、篇數も、亦三十六三十八三十九と種々の本ありしことは、

此書に附せし所の汪藻の叙録に、詳に見えれば、趙宋時代に於て、古來より異本ありしこと、既に然りしなり、因に云ふ、清の乾隆帝の四庫全書總目には、三卷三十八門本を收めたり、

三

島田翰氏の著す所の古文舊書考を按ずるに、天府の御藏に係れる、此底本と同刻の宋本を載せて、其解題中の大旨に謂へるあり、此書世に存するもの、元至正間刻する所の務本堂本、明正徳間刻の仁實堂本、萬曆間の袁褰刻本、及王世貞の刻本あり、而して仁實堂本は、宋の劉辰翁の批點本に淵源し、王正貞本は、仁實堂本に出で、務本堂本は、宋の陸放翁本に依据し、袁褰本は、務本堂本に仍る、蓋し劉辰翁本は、注文を刪略し、務本堂本は頗る多く妄改す、而して仁實堂本以後に至りては、攙改妄作して、啻に原帙の趣旨を失ふのみならず、又併せて元刻の意

を遺失す云々と、今其言果して然りや否やを知らずと雖ども、試みに此宋本を以て、我國天保二年彫する所の世說新語書林間に云はゆる官板、即ち劉應登、袁褰、王世貞三人の序文あり、首に宋臨川王義慶撰、梁劉孝標注、劉辰翁評と記する、卷上之上下、卷中之上下、卷下之上下と析ちし三卷本を以て、之を對看するに、異同頗る多し、但し其中、此宋本の訛舛誤脱するが如き處も、往々之れあるが如しと雖ども、宋本の極めて佳にして、確として依據すべきが如き所、鮮からざるに似たり、又宋本誤りて、官板にて意義の通ずるが如き所も、之れ無きに非ずと雖ども、其中島田氏が、古文舊書考に説きしが如く、明人自己の意を以て、改竄して通ぜしめしに非ずやと疑はるゝ所も、無きにあらざるなり、今左に若干條を擧げて、官板或は誤りて、此宋本の正しきが如き處を示す、

宋本卷上の德行第一の、王祥事後母朱夫人の條末の、虞預晋書曰、祥以後母故、陵遲不仕、年向六十、刺史呂虔檄爲別駕とある處、官板に、向の字を尙の字に作る、

又王恭從會稽還の條首の注に、周祇隆安記曰、恭字孝伯云々、恭清廉貴峻、志存格正とある處、官板に、正の字を王の字に作る、言語第二の、孔融被收條の注末に、盛以此爲美談とある處、官板に、美の字を文の字に作る、又張天錫爲涼州刺史の條首の注に、張資涼州記曰、天錫字純嘏とある處、官板に、字の字の下に、一の公の字あり、恐らくは衍文ならん、文學第四の庾子崇讀莊子の條に、便放去曰、了不異人意とある處、官板に、了の字を可の字に作る、

又宣武集諸名勝講易の條の注末に、周易の繫辭傳を引きて、動靜有常、剛柔斷矣とある處、官板に、常の字を爲の字に作る、今本周易を按ずるに、仍ほ常の字に作れり、

又許椽年少時の條に、時諸人士及林法師とある處、官板に、林の字を於の字に

作る、

卷中の方正第五の、夏侯玄既被極桎の條首の注に、干寶晉記曰とある處、官板に、干の字を誤りて、于の字に作る、其他も、官板大都干寶を于寶に作れり、因に云ふ、萬曆板二十一史の晋書及其他の明刻の晋書等、往々誤りて于寶に作れるものあり、

又阮宣子伐社樹の條の注に、故封土以爲社而祀之の處、官板に、封の字を風の字に作る、

又劉簡作桓宣武別駕の條の、嘗聽訊、簡都無言の處、官板に、訊の字を記の字に作る、

又韓康伯病の條末の注の、五大司馬、外戚莫盛焉の處、官板に、外以下の五字なし、恐らくは脱漏せしならん、賦雅量第六の、王夷甫與裴景聲志好不同の條の注の、自謂理構多知の處、官板に、

知の字を如の字に作る、王子猷子敬曾俱坐一室の條末の注の、獻之雖不修常貫の處、官板に、常の字を賞の字に作る、識鑿第七の、曹公問裴潛曰の條の注に、魏志を引きて云ふ、魏志曰、潛字文行云々、劉表待以賓客禮の處、官板に、以の字を之の字に作る、按ずるに、萬曆板二十一史の魏志に、以に作れり、官板誤れるが如し、又同注の末に、累遷尙書令、贈太常とある八字を、官板に、遂南渡適長沙の六字に作る、此れは魏志に據るに、宋本は、裴潛傳の最終の官銜を取るものにして、宋本蓋し優れるに似たり、

又王大將軍始下の條の注に、晉百官名曰とある處、官板に、百の字を日の字に作る、

又郗超與傅瑗周旋の條首の注に、瑗字叔玉とある處、官板に、字の字を子の字に作る、

賞譽第八の、謝幼輿曰、友人王眉子の條の注に、後胡當入洛の處、官板に、胡の字を明の字に作る、

又杜弘治墓崩の條の注に、仕丹陽丞蚤卒とある處、官板に、卒の字を年の字に作る、

又簡文云、劉尹茗柯有實理の條の注の、柯一作打、又作行、又作打の十字を、官板に、柯一作打、又作行の七字に作る、

又阮千里姨兄弟の條を、官板には別條にせずして、前の謝胡兒著作郎の條に、連続して一條と爲せり、文意を按ずるに、自らは別條なるに似たり、

品藻第九の、汝南陳仲舉、潁川李元禮の條の、仲舉遂在三君之下の處、官板に、君の字を石の字に作る、

又簡文云、謝安南清令、不如其弟の條の、學義不及孔巖の處、官板に、巖の字を氏の字に作る、

卷下の棲逸第十八の、南陽劉麟之、高率善史傳の條の、村人亦知之甚厚の處、官板に、知の字を如の字に作る、

術解第二十の王武子善解馬性の條の、嘗乘一馬、著連錢障泥の處、官板に、錢の字を前の字に作る、

又剗情信道甚精勤の條の、羊膾裏兒出の處、官板に、膾の字を骨の字に作る、

排調第二十五の、郗司空拜北府の條の、人以汝家比武侯の處、官板に、比の字を北の字に作る、

讒險第三十二の、王平子形甚散朗の條の注の、内實勁狹の處、官板に、實の字なし、此條の本文に、既に實の字あれば、官板は、當に脱せしなるべし、

以上は皆恐らくは官板誤りて、此宋本是なるかと思ふ、今偶爾に寓目せし處を摘録すること此の如し、仔細に檢尋すれば、此類右の以外にも、猶多く之れあるべし、

の古文あり

四

此景宋本の底本は、侯爵前田家の所藏たることは、末冊の尾に印記せしが如し、之を古色ある木質良好の桐材の書函に納め、函の蓋に、和板世説新語と題し、又唐本小説世説新語全五冊とも題せり、初めに和板と見て、後に糾正せしが如し、其前田家に歸せしは、何れの時なりしか、未だ記録の徴すべきを見ずと雖ども、書函の古色、又は題函の書風、及その體裁等よりして之を審定すれば、蓋し亦加賀藩主第五世前田綱紀松雲公の時に、採收せしが如し、其每冊悉く紙に裏打をなして、之を裝釘し、書函を製して、之を納めしも、他の確據ある、綱紀の命じて裝釘製函せしものより類推すれば、蓋し亦綱紀の意匠に出でしならん、
今前田家の尊經閣に存在する所の書の冊皮に、尊經總目江戸文庫と題署し、末尾に貞享元年四月廿六日と署し、綱紀の朱印、即ち文に國義之章と鐫せしも

のを鈐したる、舊目錄を觀るに、其漢籍目錄の小説の部に、世説新語、本朝印本五冊とあり、此本の函の蓋に、和板と題しあり、又冊數も、五冊なるに符合すれば、それ或は此宋本ならんかと思ふ、果して、然らば、當時既に尊經閣の藏棄となりしものならん、因に云ふ、國義は、綱紀の字なり、（鳥田氏の古文舊書考に據るに、本書と同刻のものは、天府の御藏にも之れあることは、前に述べしが如し、然れども古文舊書考に、叙録上下の二冊を載せざれば、叙録は、之れ無きが如し、）又因に云ふ、安政中、澁江善全、森立之同著の經籍訪古志に、現今天府御藏の本を載せて、宋欽宗以前の諱字嫌名、皆闕筆すと稱して、定めて北宋槧本と爲せり、然れども是れは恐らくは誤りにて、前にも既に陳述せしが如く、闕筆慎の字、即ち孝宗の嫌名に及ぶを以て、北宋の槧本とは、爲し難しと思ふ、孝宗諱は脊、脊は慎の古文なり、

又此書の宋本は、蓋し世上絶無僅有の秘笈なるが如し、今試に近代名家の藏書目錄數種を檢尋したれども、乾隆の天祿琳琅書目を始とし、その收載する所は、大抵明の嘉靖中の袁褱刻本に止まり、未だ溯りて宋本を載せし書目を見ず、但し明末の錢曾の著す所の讀書敏求記には、一の宋本を載せたれども、その解題する所、語りて詳ならず、果して何如なる本なるか、之を知るに由なし、乃ち天府の御藏、及此景宋本の底本は、實に貴重すべきものなり、而して天府の御藏本、既に叙録を逸すれば、此本の叙録二冊は、眞に是れ天壤間絶無僅有の孤本に係るものと云ふも、蓋し或は不可なきに似たり、謂はゆる魯の靈光殿の巋然として、猶存するものにして、貴重中の貴重すべきものなる歟、（清人楊守敬、光緒中著す所の日本訪書志を按ずるに、古鈔本卷子殘缺の世説新語を載せて、その解題の概畧に云ふ、是卷書法精妙、雖無年月、以日本古寫佛經照之、其爲唐時人所書、無疑、余從日下部東作借校之、首尾殘缺、所存不過規箴篇十

一、條、而正文異者數十字、注異文尤多、聞此書尙存二卷、在西京、安得盡以較錄、以還
 臨川之舊云々と、楊氏著書の時を距ること、今劣に三十有餘年、料るに其書猶應
 に世に存すべし、果して楊氏の言の如くんば、殆ど現在書目に收むる所と同一
 の古本に係り、それ亦吉光の片羽とも稱すべきものならん、茲に附記して此書
 閱覽者の參考に供す、此本の...
 因に云ふ、天府の御藏本にも、亦此本と同じく、金澤文庫の墨印ありとのこと
 なれば、此一事に觀ても、鎌倉時代、金澤文庫の收藏に豊富なりしを徴するに足
 れり、此本の...

昭和四年七月

大正四年の海軍中... 昭和三十四年七月... 又此書の木本...

155
80

一、本館は文書複製が主たる業務を多量に担当し、その結果として、西宮市立中央図書館蔵書に複製された文書は、その複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。又、本館蔵書に複製された文書は、その複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。又、本館蔵書に複製された文書は、その複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。

二、本館は複製された文書の複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。又、本館蔵書に複製された文書は、その複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。又、本館蔵書に複製された文書は、その複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。

三、本館は複製された文書の複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。又、本館蔵書に複製された文書は、その複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。又、本館蔵書に複製された文書は、その複製本と複製元の文書を併せて保存することゝなせり。

し



世説新語

155
80

155-80
1200901378976

集約済 6冊

世説新語

155

世說新語

世說新語

80

155-80
1200901378976

集約濟 6冊

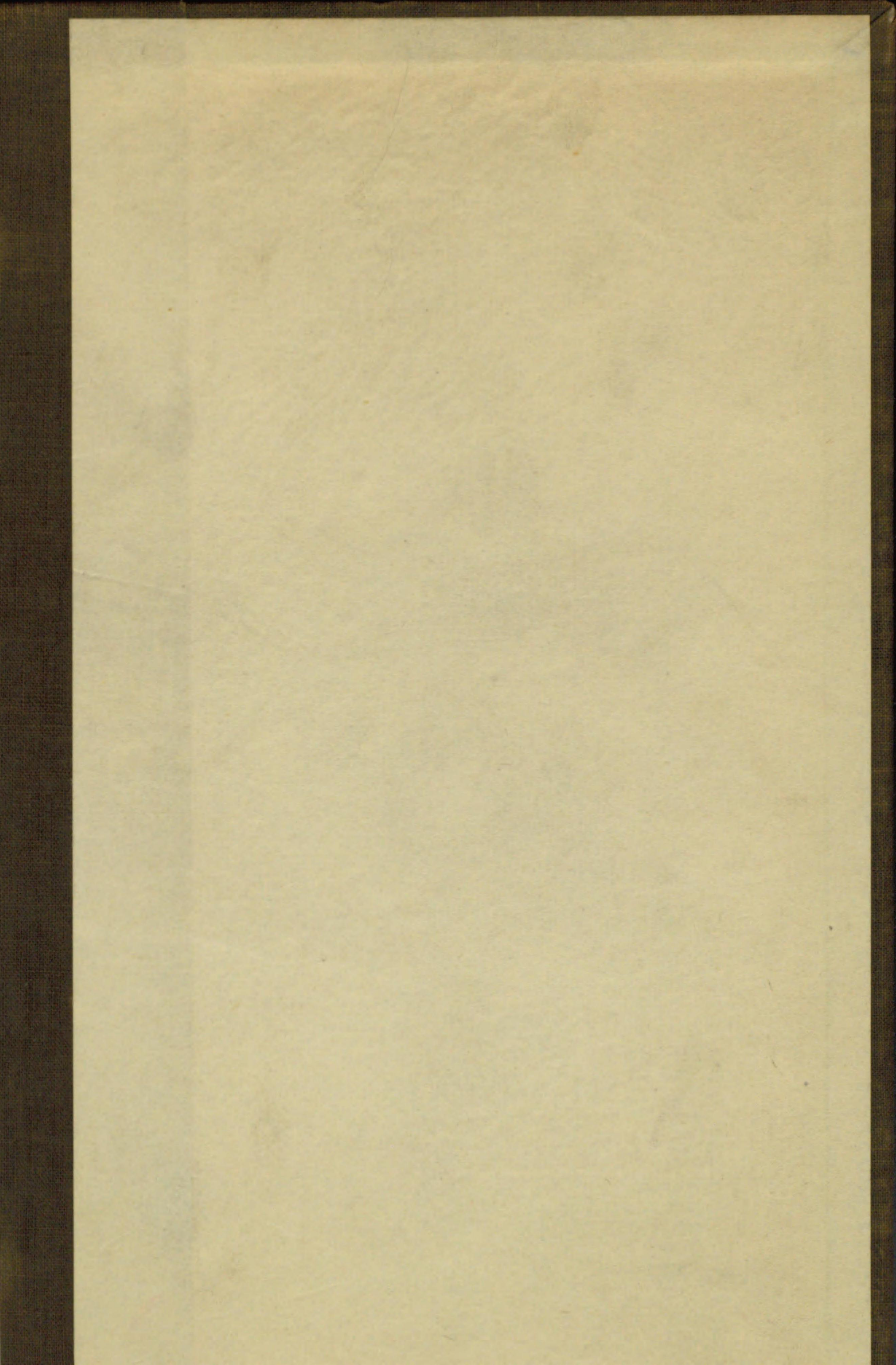
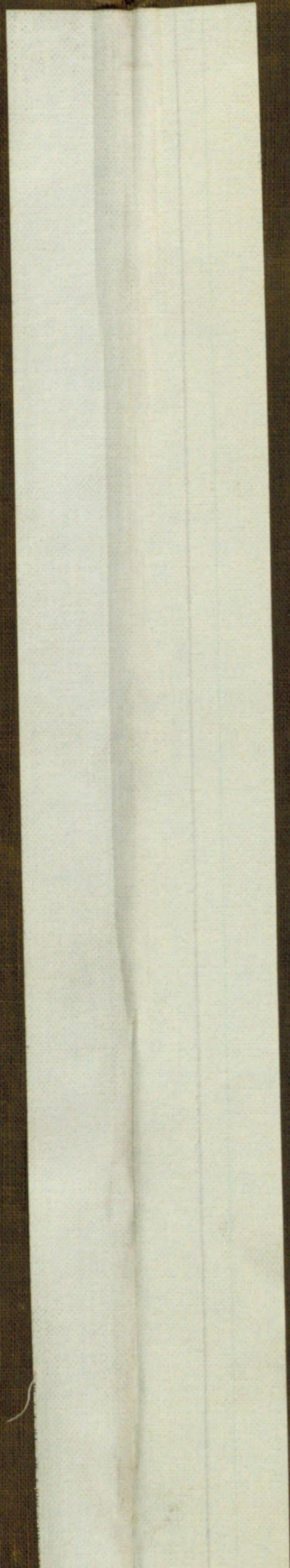
155
80

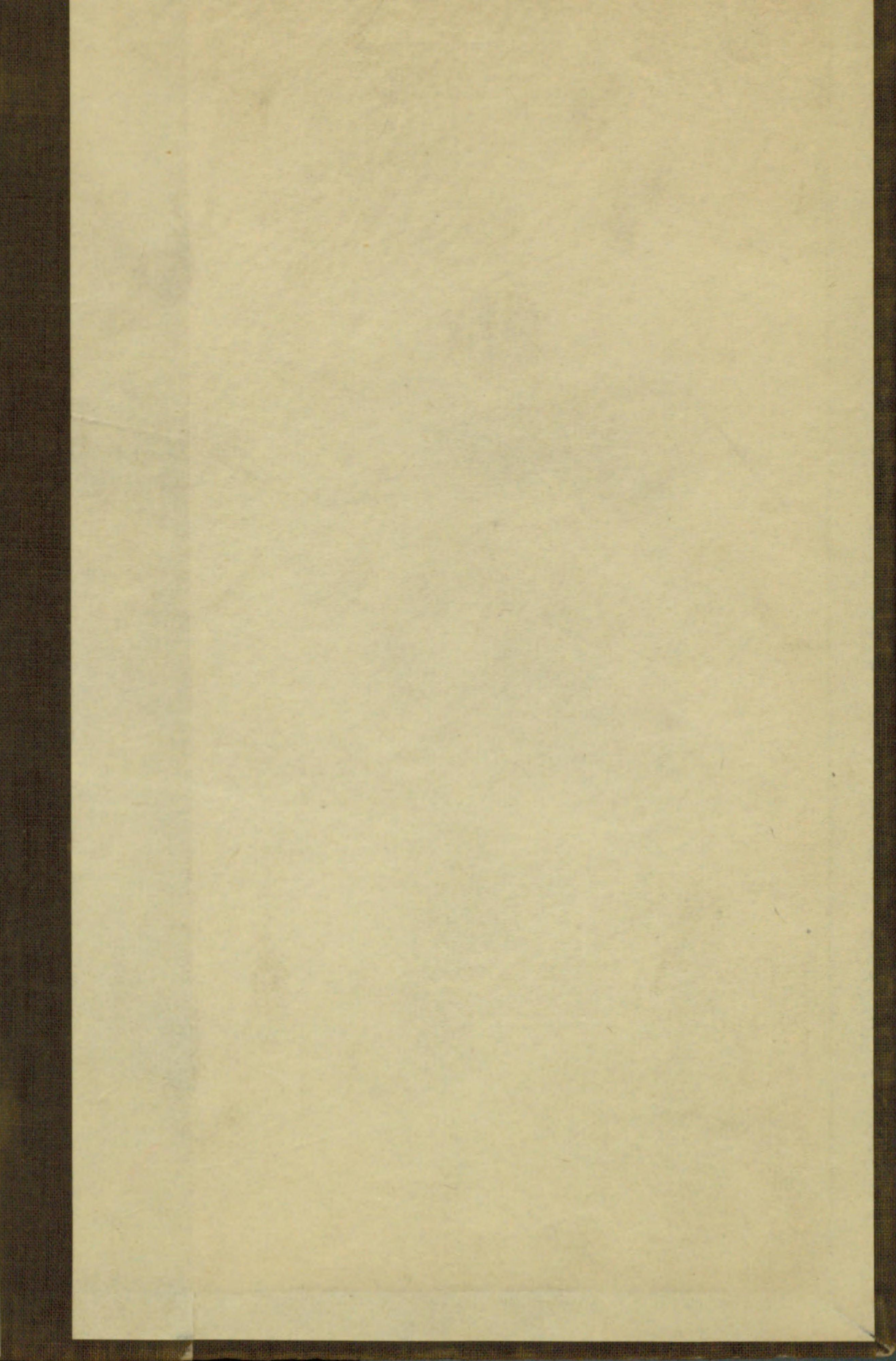
世說新語

世說新語

155

80









155
80

昭和四年十月一日印刷
昭和四年十月五日發行

（非賣）

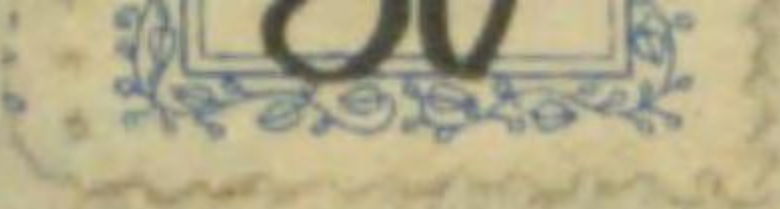
尊經閣叢刊已巳歲配本

東京府荏原郡目黒町大字上目黒通八
丁目保壽館内

發行所 育徳

右代表者 石黒

印刷者 七條



昭和四年十月一日印刷
昭和四年十月五日發行

（非賣品）

尊經閣叢刊己巳歲配本

東京府荏原郡目黒町大字上目黒通八六一番地
前田後備部内

發行者 育 德 財 團

東京市本郷區本富士町二番地

右代表者 石 黒 文 吉

東京市芝區西久保廣町二十六番地
印刷者 七 條 憲 三



